

平成 26 年 12 月 24 日

評価・IR 技術や手法についての積み上げと共有について

大学評価コンソーシアム

1. はじめに

大学評価コンソーシアムでは、各大学の評価業務や IR 業務の高度化に資することができる評価や IR の技術や手法をどのようにして積み上げ、共有していくのかについて検討をしてきた。この目的の達成に向け、従来の大学評価担当者集会や勉強会に加えて、次の 2 つの取組を行うことを計画している。1 つは、評価や IR の実務担当者が、個別テーマに応じて、実際の業務内容について、少し踏み込んだ議論や意見交換を行う連絡会の開催である。もう 1 つは、この連絡会の成果を、評価・IR の技術・手法レポートとして刊行し、大学評価コンソーシアムのホームページに電子媒体として公表することである。この 2 つの取組を通じて、全国の評価・IR 担当者とノウハウや実践知を共有していくことができると考えている。

2. IR 実務担当者連絡会

- ・年に 3 回程度、全国の大学等を会場に 4 事例程度の報告を実施する。
→ 4 件×3 = 12 件報告（この報告内容を 3 件×4 号で情報誌「大学評価と IR」に掲載する。）
- ・参加者 30～40 名程度で募集を行う。
- ・参加対象は、1) 報告したい方、2) なるべく話をしたい方【関コメント：あるいは「議論に加わりたい方】、3) 話を聞くことを中心にしたい方。
- ・趣旨説明 5 分+（報告時間 10 分～15 分+質疑応答 10 分～15 分）×4 + 総括討論 60 分 = 3 時間
- ・質疑がある場合は、開始前に配布した質問紙に記入してもらい、休憩時間に回収して総合討論時に回答する。

3. 情報誌「大学評価と IR」

(1) 名称

- ・誌名は「大学評価と IR」とする。
- ・英語名は、Journal of Institutional Research and University Evaluation。

(2) 編集・発行

- ・PDF で発行する。巻・号としてのまとめ方を基本とするが、一定程度数がまとまったところで課題別検索へも対応する。
- ・原則年 4 回発行を予定。発行者は、大学評価コンソーシアム。（編集委員会：畷田、大野、末次、関、藤井、藤原宏、藤原将）
- ・2～3 年に 1 回、成果をまとめて書籍とか紙のハンドブックで出すような方向で考えたい。

(3) 内容

1：表紙 2：白紙（表紙写真の説明） 3：まえがき（スタッフが交代で書く） 4：もくじ
・事例報告、論説、企画記事の順番に偶数で掲載するが、依頼原稿などを事例報告の前に持っていく場合もある。

・雑記、コンソーシアム動向（幹事会、イベント結果）、編集後記など編集者で作成するもの
・収録対象は、評価や IR の 1) 事例報告※（技術・手法、ノウハウ、ハウトゥ、失敗例等、体制紹介等）、2) 論説（試論、研究ノート、紹介等）、3) 企画記事（依頼記事、連載等、その他）。

※例示：A) ある課題があつて、B) このようなデータを集めて、C) このような操作（分析、集計、聞き込み等）を行ったら、D) このような結果が出た、E) それを学内のあるところで用いるとこういう改善が図られた、という流れを基本としたい。

・学術論文（Original Article）については当面予定しない。→ 研究的な内容は既存の学会誌等に投稿いただく。

・原稿は4ページから6ページを目安とする。
・勉強会等の講演なども発表者がレポート化して掲載していく（報告書はテープ起こしの原稿が掲載されてこちらはエッセンスのみが掲載されるイメージ）。

(4) 投稿及び査読

・レポートの投稿は随時受け付ける。（当面は、こちらからお願いする感じだと思われる。）
・採否の決定を目的とするのではなく、内容を分かりやすくしていただくことを主目的に「査読」を実施する。
・投稿された文書については、編集委員会が指名する者2名（原則的に教員系1名、事務系1名）が意見、掲載の可否とコメントを原則2週間以内に編集委員会に提出する。教員系は、論理構成や引用等の形式のチェックを行う。事務系は、初級者が概ね理解し、中級者が十分に理解できる内容かについて意見を述べる。査読者は年度末に公表する（どの文献がどの査読者かは記さない）。
・その内容に的確なコメントを出せる方を優先するが、なるべく関係の薄い方とする。依頼者は幹事・スタッフに限らず、協力いただける方ならお願いします（当面はスタッフ）。
・掲載文書の特色について、キーワード（5語以内）と概要（200文字程度）を著者が作成する。
・査読の謝金も執筆謝金の支払いはしない。
・査読結果は、投稿者に送付し原則1ヶ月以内の再提出等を依頼する。査読結果によっては、何往復かする。査読結果区分は以下のとおり。

1. 誤字・脱字等を修正の上、掲載してよい
2. 査読者の意見を踏まえ、修正の上掲載してよい（再査読なし）
3. 査読者の意見を踏まえ、再提出願いたい（再査読あり）
4. 大幅な修正が必要であり、一度、取り下げの上、検討願いたい

・最終的な掲載の可否は、編集委員会が決定する。

(5) その他

・著作権は、発行者（大学評価コンソーシアム）に帰属する。
・投稿については、「大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価と IR」規則」をご覧ください。
・誌面は、A4両面で印刷することを想定してページを振る。

- なお、画面で読むことを考慮し、1段組とする。
- 書き方の見本やテンプレートについては、フォーマットの詳細が固まり次第公表する。

本件のお問い合わせ先
茨城大学 大学戦略・IR室 畠田敏行
電話：029-228-8572
jirue-editors@ml.ibaraki.ac.jp
(編集委員会のメーリングリスト)